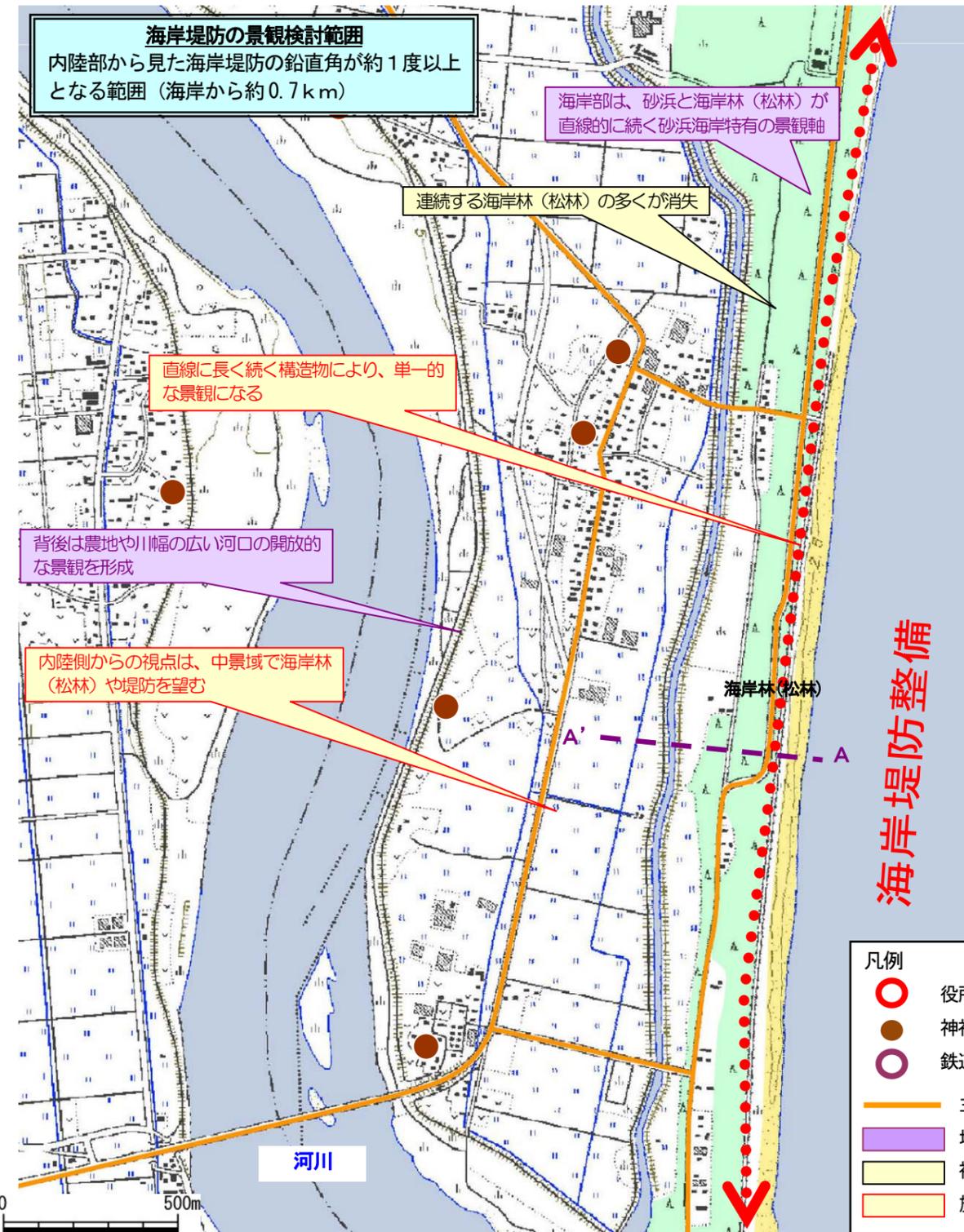


《地区の概要》

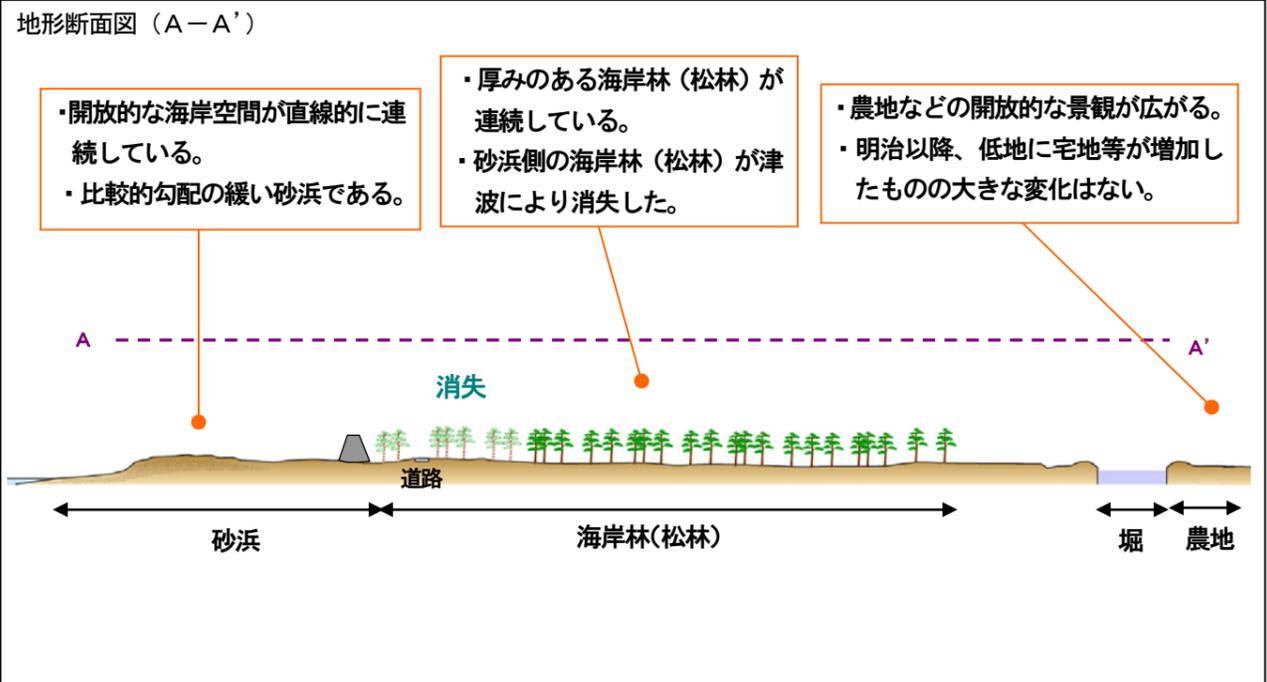
地区特性



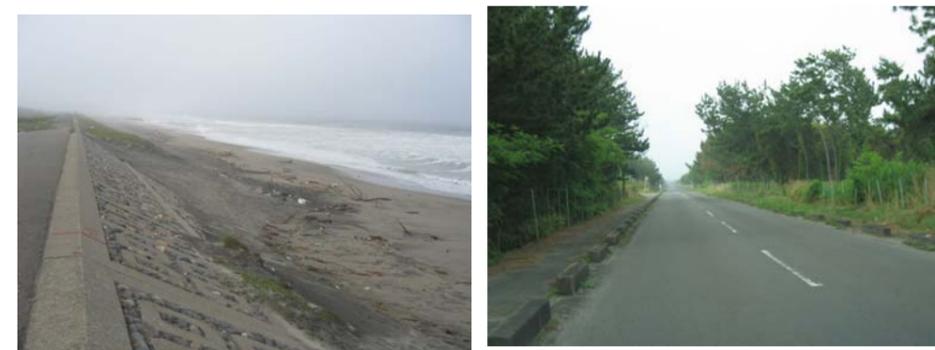
景観特性

- ・内陸の平野部では、起伏がなく広がりのある景観が形成される。海岸部は、砂浜と海岸林（松林）が直線的に続く砂浜海岸特有の景観軸、その背後は農地や川幅の広い河口等の開放的な景観が形成されている。
- ・連続する海岸林（松林）の多くが津波により消失した。

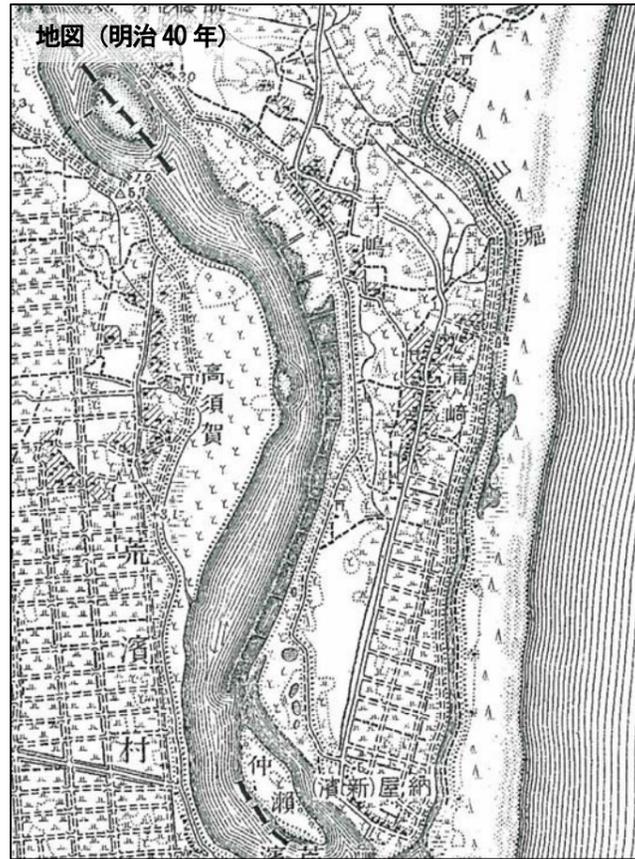
地形基盤と地域の成り立ち



被災前の堤防の状況

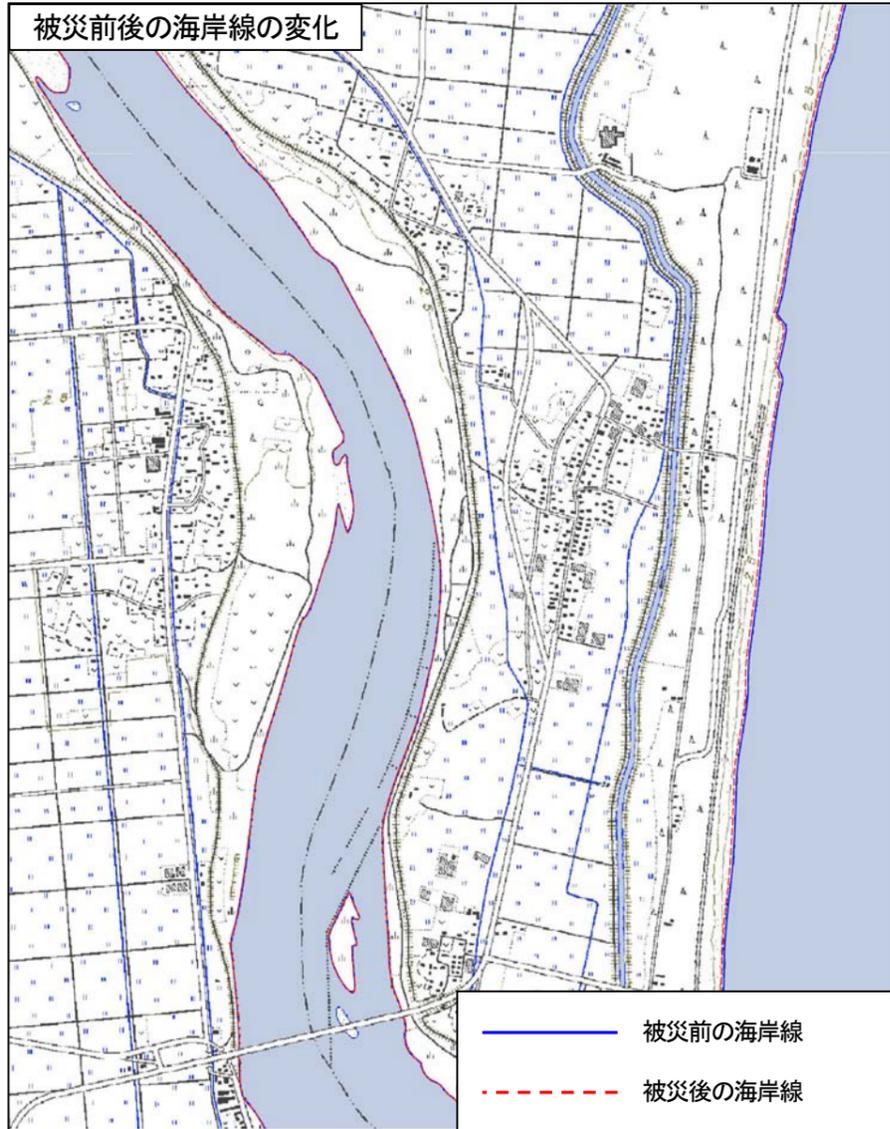


《地区の概要》

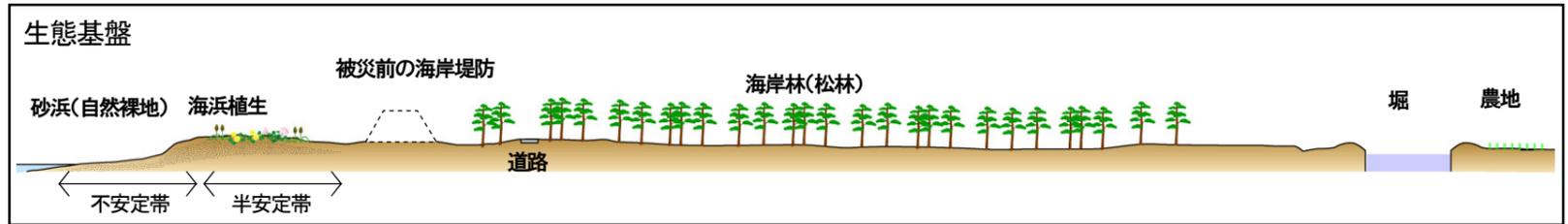


地形・生態系特性

- ・かつての海岸線と現在とを比較すると、大きな変化はみられないが、海岸線は侵食傾向にある。
- ・長大な砂浜と海岸林（松林）が带状に続く。
- ・海浜は砂の移動、潮風等により「自然裸地」となり、陸地側に向かって海浜植生、海岸林（松林）等が分布している。
- ・一帯では、砂浜海岸特有の生態系が見られる。

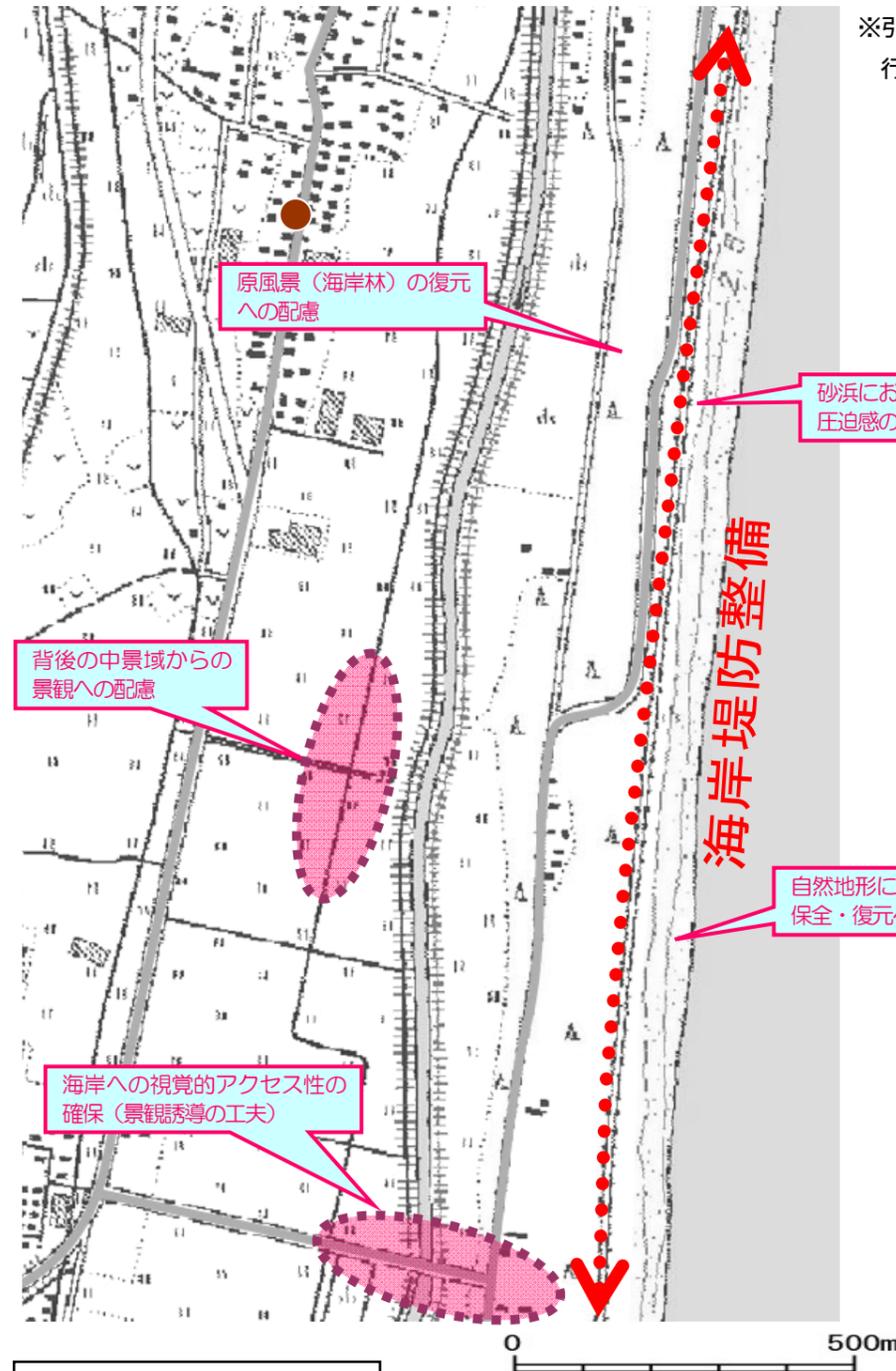


植生図 凡例（抜粋）  
 凡例色 植生図凡例番号 統一凡例番号 統一凡例名  
 14.250200.ススキ群団(V)  
 29.490000.砂丘植生  
 31.540300.クロマツ植林



《景観配慮のポイント》

景観配慮のポイント



凡例  
● 神社・仏閣

※引堤の検討については、同様の条件を有する「E地区」において行っていることから、D地区では扱わない。

砂浜における構造物の長大な印象、圧迫感の軽減

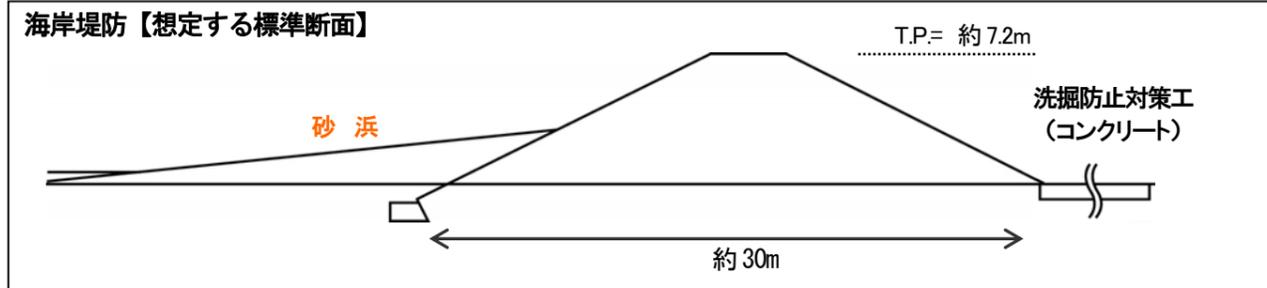
自然地形に応じた本来の生態系の保全・復元への配慮

視覚的アクセス性に配慮した事例



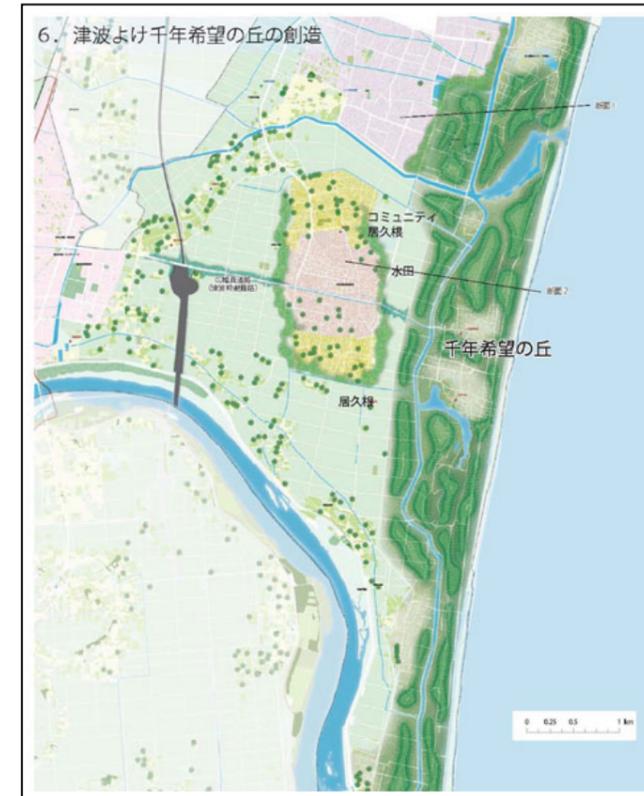
《検討条件と検討パターン》

検討条件（施設構造）



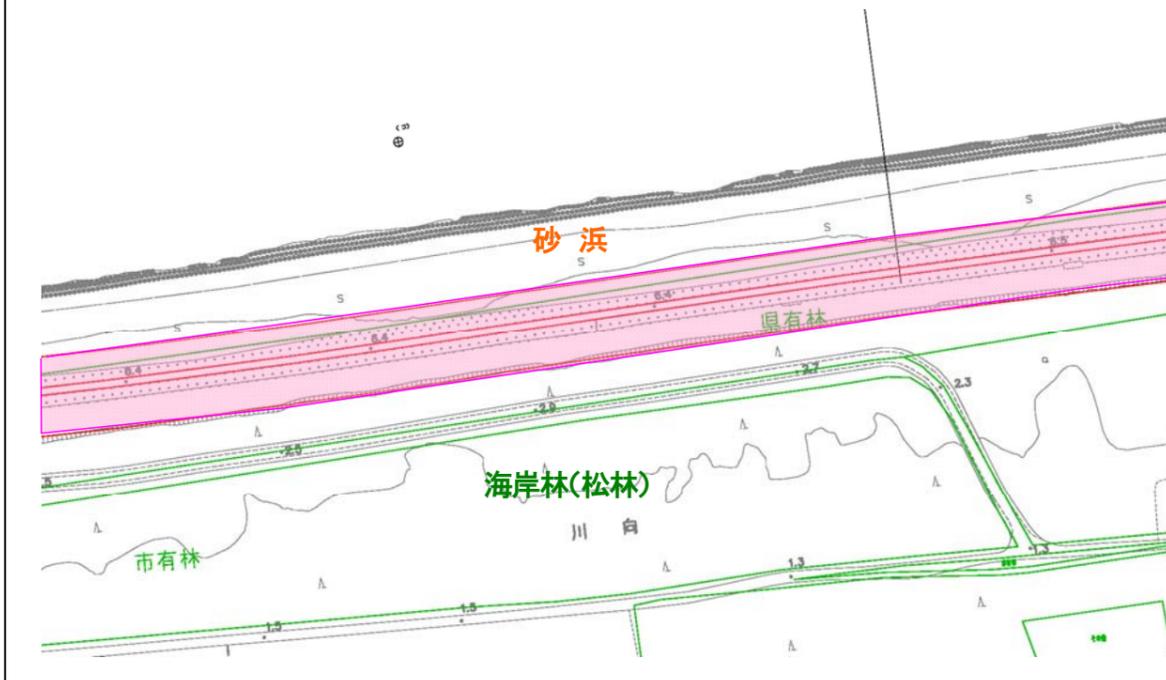
- ・高さ T.P. = 約 7.2m、幅約 30m の大規模な構造物を想定
- ・法面勾配は表裏ともに 1 : 2 を想定
- ・堤内地側法尻に洗掘防止対策工を想定
- ・表裏法面はコンクリート構造

まちづくり計画

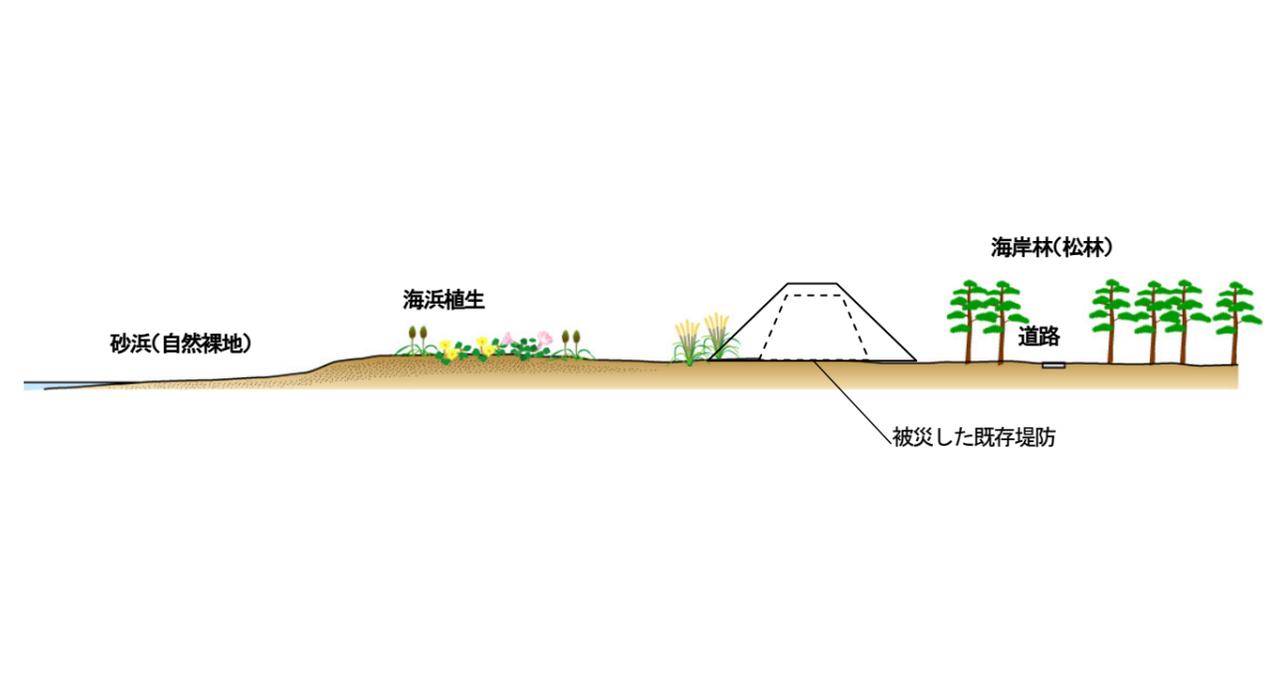


出典：震災復興計画ランドデザイン概要版

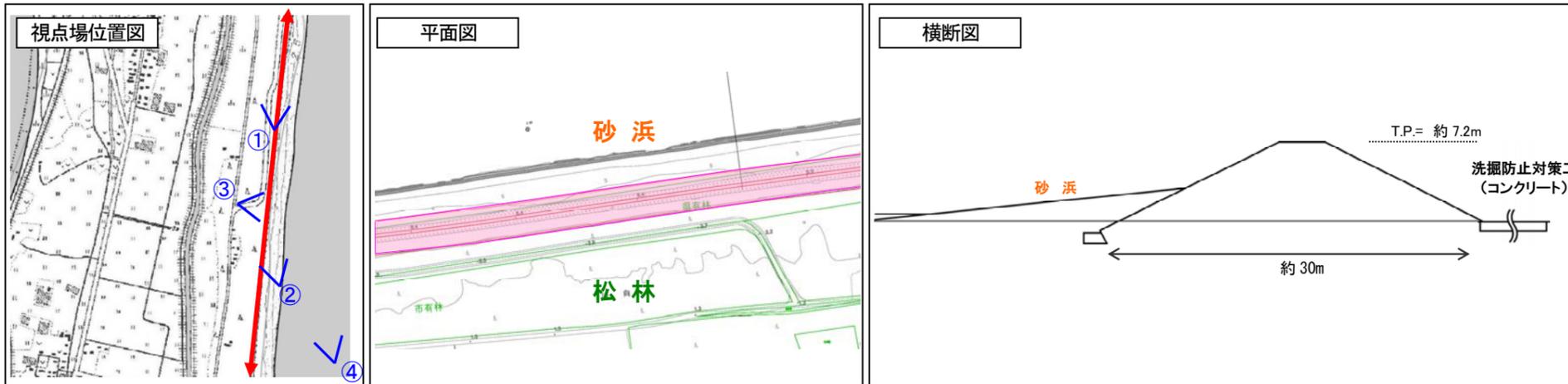
海岸堤防【想定する平面図】



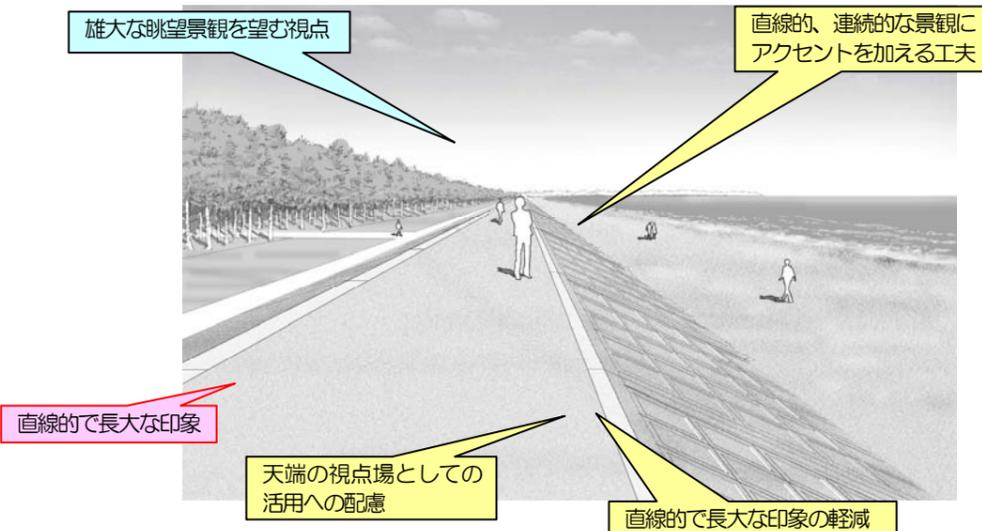
【想定する横断面】



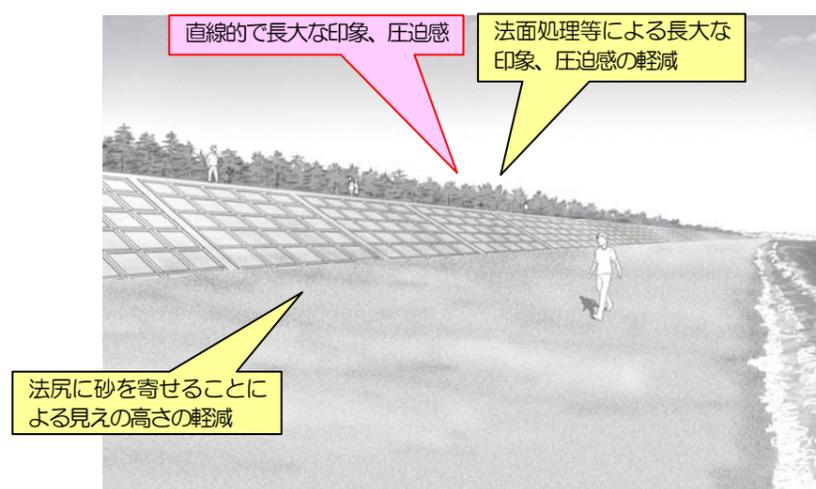
《具体的な景観配慮例》



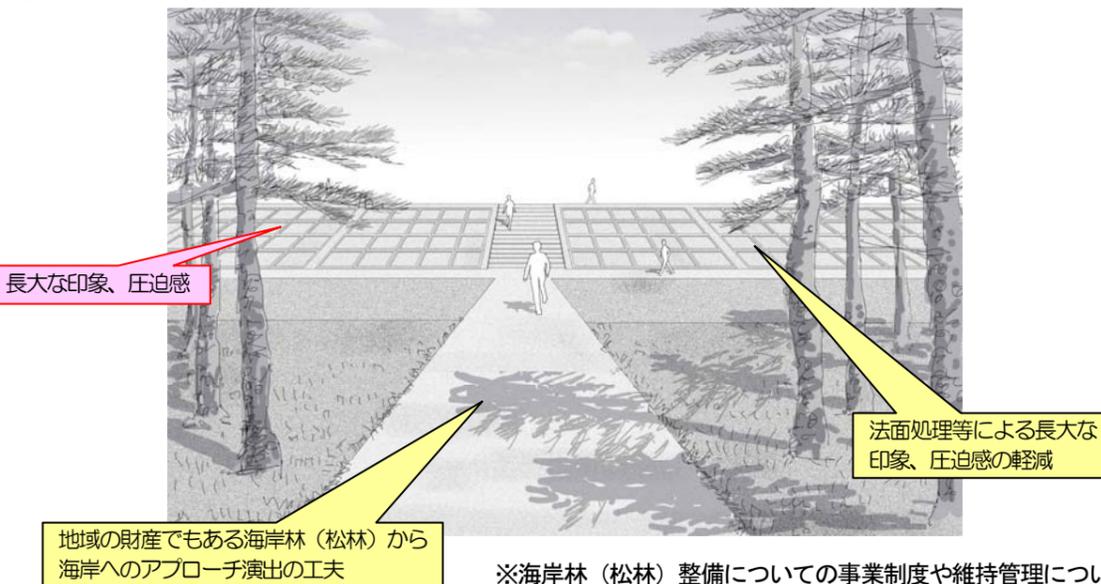
①内部景観（堤防天端）のイメージパース



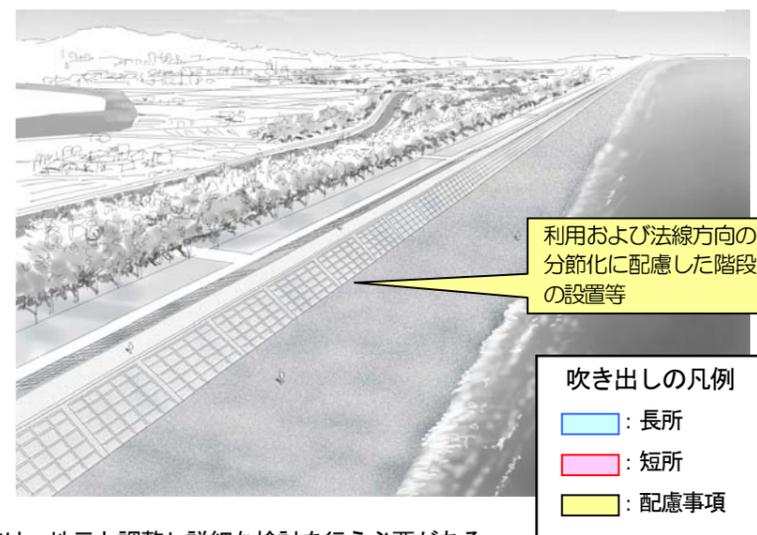
②外部景観（海側）のイメージパース



③外部景観（陸側）のイメージパース



④鳥瞰イメージパース

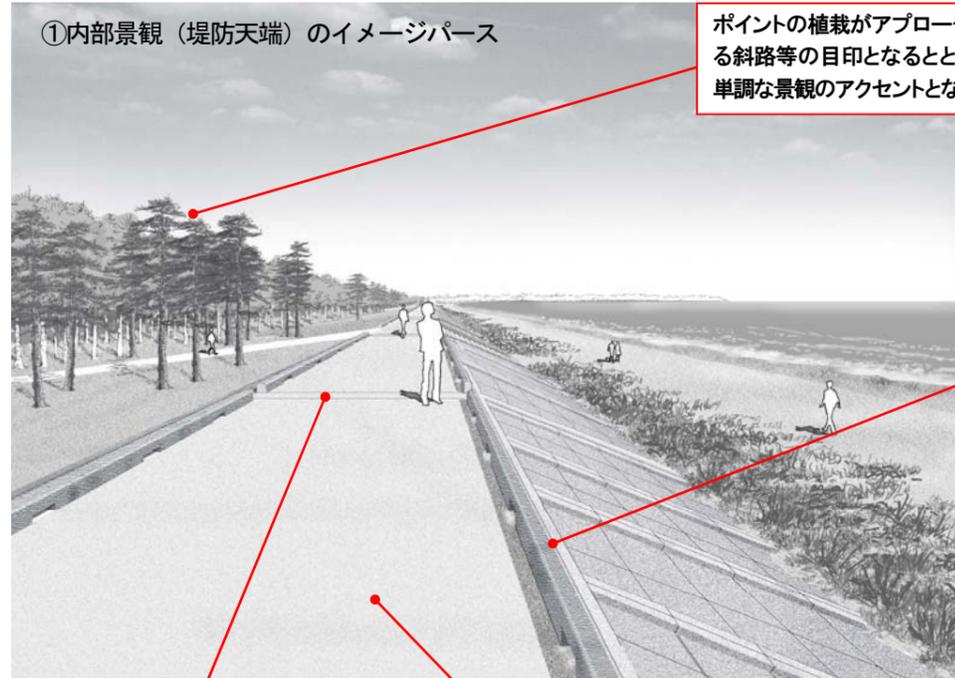


※海岸林（松林）整備についての事業制度や維持管理については、地元と調整し詳細な検討を行う必要がある

特徴・評価	
視覚的景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水平方向に長い直線形状により構造体の存在感が強調され、直線的で長大な印象を与える。</li> <li>・法線方向へのアクセントの追加、法面処理の工夫等により長大な印象、圧迫感の軽減が不可欠となる。</li> <li>・階段などを活用した分節化による景観への配慮が必要となる。</li> </ul>
地域性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続する雄大な砂浜景観を眺めることのできる眺望視点として、天端の利活用への配慮が必要となる。</li> <li>・背後地からのアクセスへの配慮により、海岸林（松林）を抜けて海岸へとアプローチする景観が形成される。</li> </ul>
生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然地形に応じた本来の生態系の保全・復元への配慮が必要となる。</li> </ul>
サステイナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汀線から堤防までの空間が少なく、波浪等による施設への外力が大きいいため、施設の維持に労力を要する可能性がある。</li> </ul>
コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原位置復旧のため、新たな用地費等は発生せず、用地取得に係る調整が不要である。</li> </ul>

《具体的な景観配慮例（細部デザインへの配慮）》 景観配慮後のイメージ

①内部景観（堤防天端）のイメージパース



ポイントの植栽がアプローチとなる斜路等の目印となるとともに、単調な景観のアクセントとなる

縁石や天端コンクリート(法肩部)は、目立つため、洗い出し加工された製品や洗い出し処理を行い、明るさを落とし、柔らかい印象を与える

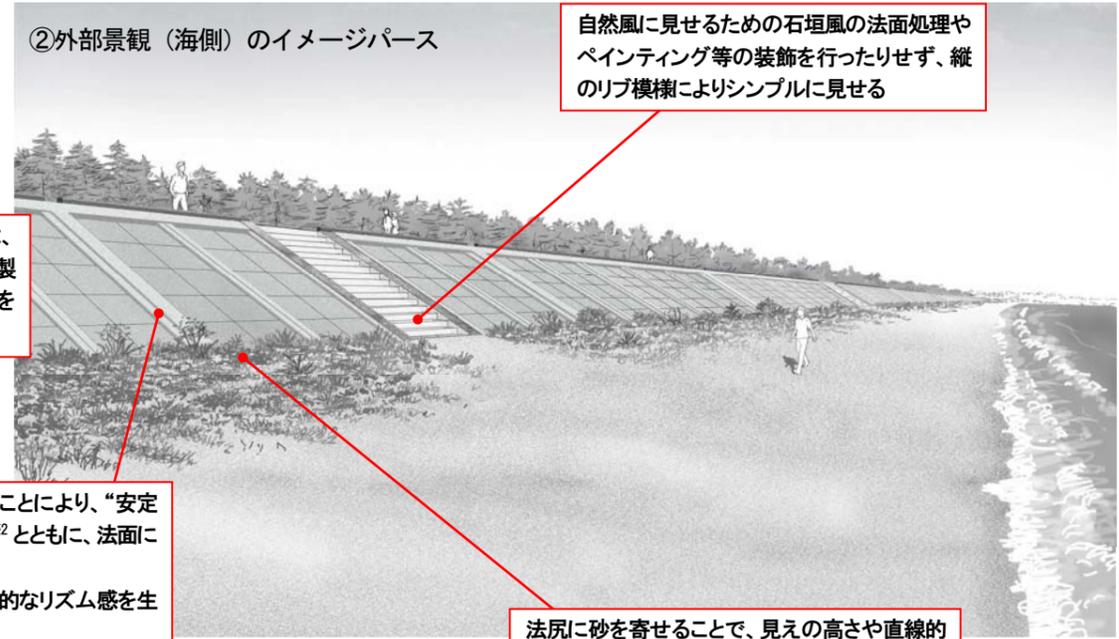
・縦のリブ模様<sup>※1</sup>が強調されることにより、“安定感、支える感覚”を表現できる<sup>※2</sup>とともに、法面に陰影が生まれ明度を抑える  
・均等な間隔での分節化が視覚的なリズム感を生み、長大な印象を軽減する

※1 パースは縦のリブ模様を凸にした場合  
※2 “構造物が背後地を防御し、支えている”という本来の機能を伝えることを念頭としたシンプルなデザインの考え方

法面のリブや階段位置に合わせてテクスチャに変化を入れることで、天端の面にも表情を与える

天端舗装は、石張り等で自然風に見せたり、ペインティングやカラー舗装等の装飾は行ったりせず、維持管理や利用性に配慮してシンプルなコンクリート被覆またはアスファルト舗装とする

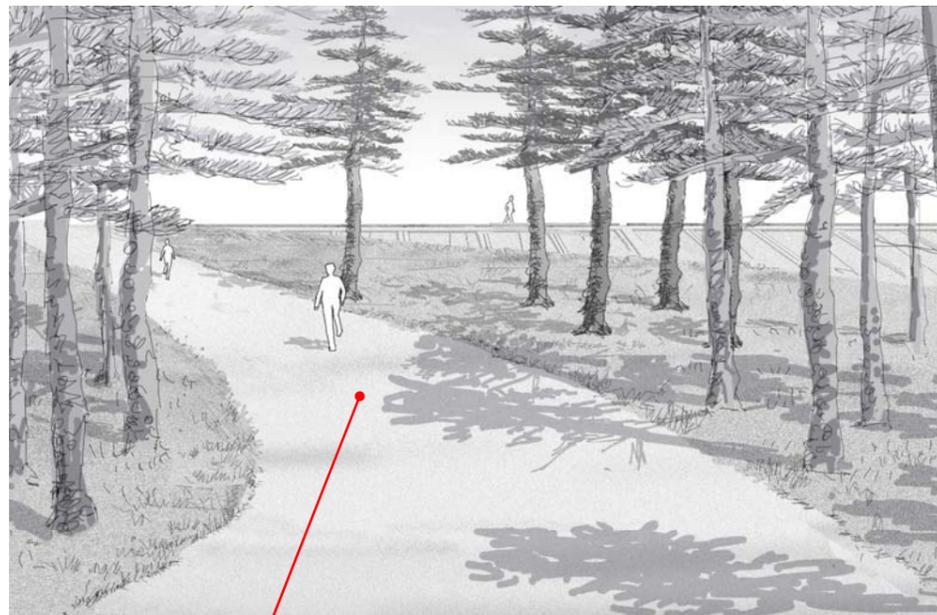
②外部景観（海側）のイメージパース



自然風に見せるための石垣風の法面処理やペインティング等の装飾を行ったりせず、縦のリブ模様によりシンプルに見せる

法尻に砂を寄せることで、見えの高さや直線的な印象を軽減できる(ぼかし効果)

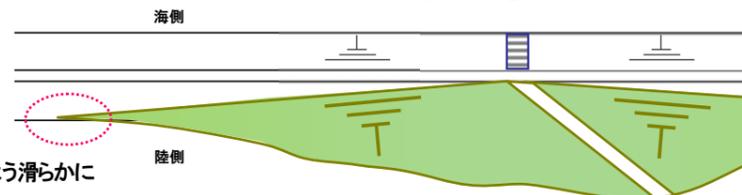
③外部景観（陸側）のイメージパース



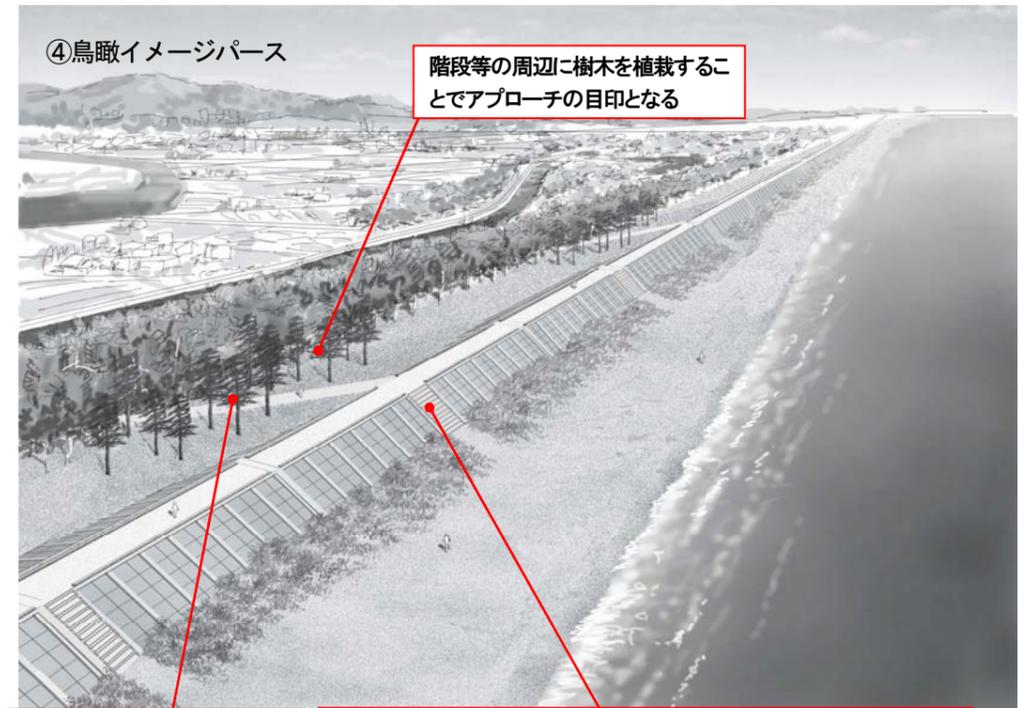
アプローチとなる斜路への緩やかな盛土により、海岸堤防の長大な印象、圧迫感が軽減され、背後地から海岸までの人口要素を感じないドラマチックなアプローチが可能となる

海岸堤防とのすり付けは、角度をつけないよう滑らかに

◆裏法への覆土の平面イメージ



④鳥瞰イメージパース



階段等の周辺に樹木を植栽することでアプローチの目印となる

アプローチとなる斜路等は、背後地の土地利用や利用状況を踏まえて配置する

・階段は、縦のリブ模様の役割と同様に、堤防法面にリズム感を与えるよう配置するものとし、目立たない幅員とする(幅員の目安: 主要なアプローチ部 4~6m 程度、天端と砂浜の昇降用 2m 程度)  
・手摺りを設ける場合は中央に設置し、収まりに配慮する